



日耳鼻医会

FAXニュース

平成25年7月8日発行 第203号

平成25年度総会開催される

日本医師会副会長 今村聡先生も挨拶

6月30日(日)午後1時より東京の八重洲富士屋ホテルで平成25年度定時都道府県代議員会ならびに総会が開催された。物故会員への黙祷が行われた後、伊東理事長は挨拶で、第37回臨床家フォーラムが盛會理に終わった事へのお礼と本年9月開催の第38回臨床家フォーラムへの参加を呼びかけた。また、1月に開催された第9回日本臨床医学会代表者会議や2月に配布された風疹予防接種促進のポスターやワクチン定期接種化署名活動協力の触れ、耳鼻咽喉科医会の集合体としての日本耳鼻咽喉科医会の存在の必要性を強調した。最後に医政の重要性について触れた。

理事長挨拶の後、日本医師会副会長今村聡先生より当会総会への祝賀のご挨拶と羽生田・武見両先生の医療活動へのご尽力と我々医師の代弁者としての必要性を述べられた。

その後議事に入り、上程された第1号議案から第4号議案まで執行部の提案通り承認可決された。

平成25年度の **事業計画総論** は以下の通り。

本会は地区単位の耳鼻咽喉科臨床医の医会並びにその他個人会員および賛助会員によって構成され、広く国民に対して正しい耳鼻咽喉科医療の啓蒙と教育活動を行うとともに、会員の医療水準の向上と臨床各科医会との連携と情報の共有を図り、日本医師会傘下の団体として、医療・保健・福祉・介護に積極的に取り組むことを大きな目標と致します。

昨年12月に誕生した安倍政権は、大胆な金融緩和・機動的な財政出動・民間投資を喚起する成長戦略を「3本の矢」とする経済政策を掲げ、株価上昇・円安が始まりました。それに呼応するかのように諸物価の上昇が始まりました。また景気の動向如何では平成26年4月には消費税が8

%に上がります。国民の生活が本当にアベノミクスの恩恵を受けて良くなるのか、地方と中央との色々な格差がなくなるのか予断を許せない状態です。

安倍政権での医療政策では国民皆保険制度は堅持するとしていますが、混合診療の拡大も検討されており、さらに日本医師会ははじめ多くの団体が強く反対していたTPP(環太平洋連携協定)に参加を表明しました。本当に国益が守れるのか、果たして世界に誇る国民皆保険制度が今後本当に維持できるかどうか不安が残り、これからの動きに目が離せません。

このような状況において私たち耳鼻咽喉科臨床医が国民への安心安全な医療の提供と耳鼻咽喉科の地位向上を図ってゆかために今後何をすべきか考えたいと思います。

具体的には継続事業としてのレセプト調査をはじめ、社会保険情報の収集と伝達、良質な医療を提供するために必要な知識・医療技術の収集と伝達、各科医会との情報の共有、並びに日本医師会を通じた医療情報の収集と伝達等を継続して行います。また耳鼻咽喉科の専門性を武器に積極的に在宅医療・在宅介護に関われるよう日本医師会・日本歯科医師会・日本看護協会をはじめ諸団体とのネットワークの構築を行います。

専門医制度について、厚生労働省の有識者検討会が最終報告をまとめ、各学会が独自に認定している現状を平成25年度に発足した第三者機関が認定する仕組みに改め、技量のばらつきや乱立状態の改善に乗り出しました。認定基準や養成課程などを作り、平成29年度から養成研修を開始、平成32年度には新専門医が誕生する見通しになっています。地域医療崩壊をまねいた新臨床研修医制度と同じように都市の大学・大病院に若手医師が専門医資格を取得するために集中し、地域医療の更なる崩壊を招くのではないかと危惧します。今後耳鼻咽喉科専門医がどうなるかも含めて情報の収集につとめ随時会員に提供して行きたいと思えます。

平成26年4月には診療報酬改定が行われます。平成24年度の改定では重点課題1として、急性期医療等の適切な提供に向けた病院勤務医等の負担軽減と医療従事者の負担軽減、重点課題2として医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化及び在宅医療等の充実が上げられ、耳鼻咽喉科にとっては手術点数は上がりましたが基本診療料や処置料などは据え置かれたままでした。既に中医協では改定に向けての作業に入っていますが、その動向も含めて情報の収集と会員への伝達に努め、また会員の意見を集約して関係機関に働きかけて行きます。

これらの事業を遂行するためにも個人会員の増強をはじめ、未加入医会、退会医会にも積極的に働きかけて共に活

動出来るように努力致しますとともに会員の皆様にはより一層のご理解ご協力をお願い致します。 以上

総会の後、「医療と消費税 - 誰が負担すべきか」と題して京都紫明税理士法人の税理士船本智睦氏の講演があった。詳細は会誌「かがみ」に掲載予定。

「第38回臨床家フォーラム」ご案内

期日：9月15日(日)・16日(月・祝)

会場：コクヨホール(品川駅近く)

分科会：9月15日(日)午後

小児の睡眠時呼吸障害 山梨大小児科 杉山剛先生
外来・在宅における嚥下障害診察 部坂・西山先生
耳鼻咽喉科領域の daVinci ロボット支援手術

東京医科大耳鼻科 伊藤博之先生
繰り返すめまい発作にどう対応するのか？

具体的に考えます 厚生年金病院 石井正則先生
実習 聴力検査 嚥下内視鏡検査(部坂・西山先生)

全体集會講演：9月16日(月・祝)午前中

日本医師会の東日本大震災対応 - 福島原発事故下でのJMAT活動 日医常任理事 石井正三先生

アレルギー疾患関係 東京女子医科大 玉置淳先生
アスクレピオスの心を書いて 作家 林 真理子 様

エクスカーション・スカイツリー見学、ゴルフなど

astellas

経口用セフェム系製剤 日本薬局方 セフジニルカプセル、セフジニル細粒

セフゾン® 細粒小児用10% 50mg 100mg

【効能・効果】【用法・用量】【禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意】等につきましても、製品添付文書をご参照ください。

表題販売 アステラス製薬株式会社 東京都港区港南3-17-1

2013年4月作成 89×127mm

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連會館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp